

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 29 年 6 月 14 日現在

機関番号：16301

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25285017

研究課題名(和文)感染症政策における患者の人権保障 日諾中法制比較調査研究

研究課題名(英文)Protection of human rights of patients in the infectious disease policy

研究代表者

鈴木 静 (SUZUKI, Shizuka)

愛媛大学・法文学部・准教授

研究者番号：80335885

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 8,600,000円

研究成果の概要(和文)：感染症対策における患者の人権保障については、2つの面から検討を進めた。1つは日本国内のハンセン病法制の制定過程や改正過程、法の運用実態を明らかにするため、通史として考察してきた。日本独自のハンセン病隔離政策の特質がいかに形成され、人権侵害をもたらした現代へ影響を与えたかを明らかにした。2つめはノルウェーを主たる対象国にハンセン病法制の制定や運用実態につき、考察してきた。「ノルウェー方式」と日本のハンセン病政策との相違を法構造と法運用実態を中心に考察してきた。

研究成果の概要(英文)： We examined the human rights protection of patients in infectious disease control from two aspects. First, we examined the process of establishing and revising the legal system for Hansen's disease in Japan and the actual situation of the operation of the law based on history. It was revealed how Japan's Hansen's disease isolation policy was formed and brought about human rights abuses and influenced the present age. Secondly, We have considered Norway as the main target country concerning establishment and management practice of Hansen's disease legislation. We have considered differences between "Norwegian model" and Japanese Hansen's disease policy mainly focusing on legal structure and legal practice.

研究分野：社会保障法

キーワード：患者の権利 医の倫理 ノルウェーモデル

#### 1. 研究開始当初の背景

本研究に関する国内・国外の研究動向は3点あった。第一に、2000年代以降、近現代における医療政策下で行われた人権侵害の実態解明とその分析が、飛躍的に進んでいた。主に医療倫理学、歴史学、社会学等から取り組まれており、「医の倫理」の検討と人権の視点からの再構築の試みである。

第二に、医療政策とりわけ感染症対策のもとで患者の人権と公共の福祉が衝突する場合における調整原理に関する研究が進んでいた。

第三に、ハンセン病は、人権問題としてようやく第65回国連総会(2011年)でとりあげられ、また本格的な各国法制の比較研究が始まったところであった。応募者らは、井上代表の基盤(B)において、国内で初めてノルウェーとの政策及び運用実態の比較に関する国際シンポジウムを開催した(2011年1月「ハンセン病政策と患者の人権 ノルウェーと日本」「ハンセン病政策と資料保存 ノルウェーと日本」、主催は金沢大学・国立ハンセン病資料館)。これは、国際的規模で、近現代のハンセン病政策を社会科学的な視点からも検討する動きに合致している<sup>3)</sup>。とりわけ、19世紀後半に感染症であることが判明してからのハンセン病医療政策をリードしてきたノルウェーとの比較は、日本のみならず世界各国で注目されていた。

#### 2. 研究の目的

2011年、第62回国連総会において「ハンセン病差別撤廃決議」が決議された。これは人権問題としてハンセン病政策及び患者を取り巻く実態が、まさに国際的課題になったことを示す。他方、近年、新型のかつ強力な感染症が人類の脅威となるなか、感染症政策における人権保障が問われている。本研究の目的は、日本のハンセン病隔離政策の過ちを教訓として、患者の人権とりわけ健康権を保障する、すなわち人権保障と感染拡大予防としての感染症政策の調整原理と具体策を提起することを試みる。

#### 3. 研究の方法

第一に、国連およびWHOを中心にした健康権に関する研究である。現在、国連では、健康権研究が大きく進展しており、司法アプローチ、行政アプローチなどの手法を用い、加盟各国の諸政策につき統一的な基準で分析することが試みられている。健康権につき、考察を深めた。

第二に、感染症対策における政策形成過程と患者の権利に関する研究である。とりわけノルウェー及びヨーロッパ諸国に焦点を絞り、「ノルウェーモデル」が各国に与えた影響と異同につき、政策面から明らかにする。あわせて、ノルウェー現地調査により、関連法制と運用実態における乖離(1900年代より関連法が適用されなかった)理由と社会背景

を考察した。

第三に、アジアにおける感染症政策形成史及び患者への人権侵害に関する研究である。特に、中国(旧日本領も含む)における感染症政策及び防疫事業の形成史に焦点を絞り、患者への人権侵害に関する実証研究を進めた。

#### 4. 研究成果

第一に、国連およびWHOを中心にした健康権に関する研究については、国際人権法の観点から社会権規約第3回定期報告書の審査の分析や健康権保障の到達状況と日本の医療保障制度の課題を明らかにしてきた。国連では健康権保障の到達状況を測定する人権指標が策定され、本研究では国内における活用の試みにつき検討した(棟居)。これらの成果は国際人権法学会研究集会や医師で構成する団体の招聘講演で公表した。また、権利の保障と擁護の仕組みを地域で構築するため、健康権保障の観点から、リハビリテーションのあり方を提言した(井上)。

第二に、感染症対策における政策形成過程と患者の権利に関する研究については、2つの面から検討を進めた。1つは日本国内のハンセン病法制の制定過程や改正過程、法の運用実態を明らかにするため、2017年5月までに16回にわたり通史として考察してきた(井上)。日本独自のハンセン病隔離政策の特質がいかに形成され、人権侵害をもたらした現代へ影響を与えたかを明らかにした。2つめはノルウェーを主たる対象国にハンセン病法制の制定や運用実態につき、考察してきた。「ノルウェー方式」と日本のハンセン病政策との相違を法構造と法運用実態を中心に考察してきた。この成果は、招聘講演も含め複数の国内学会で公表した(鈴木)。また日本植民地下であった韓国のハンセン病法制制定と法運用実態を明らかにし、解放後の韓国政府の考え方に影響を与えたことを示した。さらに現在もハンセン病の新規発生があるマダガスカルについて、政権が不安定な状況が続くなか貧困問題と重複する形で、ハンセン病医療がままならずハンセン病法制が影響を持ちえない状況を明らかにした。

第三に、アジアにおける感染症政策形成史及び患者への人権侵害に関する研究については、戦争期の医学犯罪を中心に4つの側面から取り組んだ。1つめは、日本軍慰安婦、ハンセン病患者らへの人権侵害と救済、再発防止の考察を深め、日本政府の責任と日韓関係のあり方について、韓国で公表し研究会の場にて韓国関係者と議論をした(井上)。2つめは、15年戦争期における国内、植民地下における医師の学位授与についてである。学位論文内容を検討することを通じ、患者への実験がどのような内容であったかを明らかにし批判した。一連の研究は、『戦争と医学』等の著作にまとめられ中国で翻訳出版されるとともに、韓国東南亜財団の招聘により研

究成果を報告した(西山)。3つめは医学犯罪を倫理学から分析し、15年戦争期の日本の医学犯罪を検証することは医学研究倫理にとってどのような意義をもつか等を明らかにしてきた(土屋)。4つめは歴史学の立場から、戦争期の後方支援としての医療に着目し軍陣医学の実態を明らかにしてきた(末永)。こうした研究の蓄積で、当初の研究目的の達成に確実に近づくことが出来た。さらに研究を重ねたい。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 41件)

1. 鈴木静「人権としての社会保障制度を目指して」隔月刊社会保障、査読無、471頁、2017年、26 - 29頁
2. 鈴木静「ノルウェー・ベルゲン市『世界記憶遺産』の活用」平成28年度愛媛大学鋼材講座世界の都市と地域、査読無、4号、2017年、26 - 31頁
3. 井上英夫「ハンセン病政策と人権：現在、過去、未来 第18回 医師 小笠原登：絶対隔離収容政策に抗して」月刊ゆたかなくらし、査読無、413号、2016年、32 - 36頁
4. 井上英夫「ハンセン病政策と人権：現在、過去、未来 第17回 日本のアウシュビッツ『重監房』」月刊ゆたかなくらし、査読無、412号、2016年、30 - 34頁
5. 井上英夫「ハンセン病政策と人権：現在、過去、未来 第16回 植民地、占領地で何をしたか：韓国小島(ソロクト)にて戦争責任を問う」月刊ゆたかなくらし、査読無、410号、2016年、46 - 50頁
6. 井上英夫「ハンセン病政策と人権：現在、過去、未来 第15回 家族を奪う、子孫を奪う断種・墮胎の強制」月刊ゆたかなくらし、査読無、409号、2016年、46 - 50頁
7. 井上英夫「ハンセン病政策と人権：現在、過去、未来 第14回 ハンセン病政策による被害実態をどう明らかにするか」月刊ゆたかなくらし、査読無、406号、2016年、46 - 50頁
8. 井上英夫「ハンセン病政策と人権：現在、過去、未来 第13回 1931年癩予防法の目的と構造(下)」月刊ゆたかなくらし、査読無、403号、2016年、43 - 47頁
9. 井上英夫「ハンセン病政策と人権：現在、過去、未来 第12回 1931年癩予防法の目的と構造(上)」月刊ゆたかなくらし、査読無、402号、2016年、42 - 45頁
10. 鈴木静「HAN Seok-Jong『社会から最も疎外された少数者・ハンセン病回復者の国家賠償訴訟』に関するコメント」愛媛法学会雑誌、査読無、42 - 3.4、2016年、15 - 20頁
11. 末永恵子「海南島におけるペスト防疫」15年戦争と日本の医学医療研究会会誌、査読無、16(2)、2016年
12. 鈴木静「日本とマダガスカル 貧困問題とハンセン病政策」医療福祉研究、査読無、24巻、2015年、53 - 56頁
13. 棟居徳子「国際人権法上の健康権保障の観点からみた原発事故対応及び被災者支援の課題(一)」月刊国民医療、査読有、323号、2015年、13 - 22頁
14. 鈴木静「韓国におけるハンセン病医療政策の歴史と現状に関する一考察」愛媛大学法文学部論集総合政策学科編、査読無、39号、2015年、19 - 39頁
15. 西山勝夫「731部隊所属医師の学位授与などの妥当性」15年戦争と日本の医学医療研究会会誌、査読有、15(2)、2015年、24 - 37頁
16. 西山勝夫(中国語訳・韓慧光)「731部隊関係者等の京都大学医学博士論文の構成」七三一問題国際研究中心文集、査読無、2015年、1038 - 1065頁
17. 西山勝夫(中国語訳・魯丹)「金子順一、池田苗夫の医学博士の学位授与過程」七三一問題国際研究中心文集、査読無、2015年、1125 - 1204頁
18. 土屋貴志「ヘルシンキ宣言の成立」15年戦争と日本の医学医療研究会会誌、査読有、15(1)、2015年、22 - 39
19. 井上英夫「ハンセン病政策と人権：現在、過去、未来 第11回 軍事国家・戦争と1931年癩予防法」月刊ゆたかなくらし、査読無、401号、2015年、42 - 44頁
20. 井上英夫「ハンセン病政策と人権：現在、過去、未来 第10回『癩予防二関スル件』と光田健輔」月刊ゆたかなくらし、査読無、398号、2015年、34 - 37頁
21. 井上英夫「ハンセン病政策と人権：現在、過去、未来 第9回 癩予防二関スル件：日本型隔離政策の開始」月刊ゆたかなくらし、査読無、397号、2015年、32 - 35頁
22. 井上英夫「ハンセン病政策と人権：現在、過去、未来 第8回 ノルウェーから学ぶもの(2)ノルウェー方式と日本のハンセン病対策」月刊ゆたかなくらし、査読無、396号、2015年、34 - 38頁
23. 井上英夫「ハンセン病政策と人権：現在、過去、未来、第7回 ノルウェーから学ぶもの」月刊ゆたかなくらし、査読無、395号、2015年、42 - 47頁
24. 井上英夫「ハンセン病政策と人権：現在、過去、未来 第6回 絶対主義天皇制の確立と人権」月刊ゆたかなくらし、査読無、394号、2015年、36 - 42頁
25. 井上英夫「ハンセン病政策と人権：現在、過去、未来 第5回 ハンセン病の人々の暮らし：江戸から明治へ」月刊ゆたかなくらし、査読無、393号、2015年、18 - 21頁

26. 井上英夫「ハンセン病政策と人権：現在、過去、未来 第4回 - 偏見・差別の歴史と皇室歴史観を問う」月刊ゆたかなくらし、査読無、392号、2015年、41 - 46頁
27. 棟居徳子「国際人権法上の健康権保障の観点から見た原発事故対応及び被災者支援の課題（二・完）国民医療、査読無、327号、2015年、52 - 65頁
28. 棟居徳子「健康権保障の国際的動向と日本の課題 社会権規約定期報告書審査の分析を通して」週刊社会保障、査読無、2823号、2015年、46 - 51頁
29. 棟居徳子「性暴力被害者体制の構築と医療制度上の課題」週刊社会保障、査読無、2769号、2014年、50 - 55頁
30. 鈴木静「マダガスカルにおけるハンセン病医療政策及び療養所運営の現状」愛媛大学法文学部論集総合政策学科編、査読無、37巻、2014年、77 - 89頁
31. 西山勝夫「陸軍軍医学校貿易研究報告第2部 715号の解題」15年戦争と日本の医学医療研究会会誌、査読無、14(2)、2014年、17 - 30頁
32. 西山勝夫「京城帝国大学医学部の博士学位の授与について 物江敏夫朝鮮軍管区防疫部長の場合 - 」15年戦争と日本の医学医療研究会会誌、査読無、15(1)、2014年、13 - 23頁
33. 棟居徳子「社会権規約第3回定期報告書審査の概要と今後の課題」国際人権、査読無、25巻、2014年、90 - 94頁
34. 井上英夫「権利の保障と擁護の仕組みを地域でつくる リハビリテーションと人権 住み続ける権利と健康権」リハビリテーション研究、査読無、158号、2014年、10 - 14頁
35. 井上英夫「ハンセン病政策と人権：現在、過去、未来 第3回 グランドゼロを超えて」月刊ゆたかなくらし、査読無、390号、2014年、28 - 32頁
36. 井上英夫「ハンセン病政策と人権：現代、過去、未来 第2回：ハンセン病問題の現在」月刊ゆたかなくらし、査読無、389号、2014年、95 - 101頁
37. 井上英夫「ハンセン病政策と人権：現代、過去、未来 第1回」月刊ゆたかなくらし、査読無、387号、2014年、50 - 53頁
38. 井上英夫「倫理から人権へ 第8回」特別編・マダガスカル訪問記」石川県保険医協会、査読無、505号、2014年、3頁
39. 西山勝夫「731部隊関係者等の京都大学における医学博士の学位の授与過程」15年戦争と日本の医学医療研究会会誌、査読有、13(2)、2013年、46 - 70頁
40. 西山勝夫・金子順一「池田苗夫の医学博士の学位授与過程」15年戦争と日本の医学医療研究会会誌、査読有、13(2)、2013年、71 - 79頁
41. 土屋貴志「15年戦争期における日本の医学犯罪」社会医学研究、査読無、特別号、

2013年、50 - 51頁

〔学会発表〕(計 32件)

1. 鈴木静「『社会的排除』と福祉の観点から ハンセン病問題：患者にとっての戦争と人権保障」佛教大学 2016年度福祉教育開発センターシンポジウム(招待講演) 2016年12月4日、佛教大学(恐怖京都市)
2. 鈴木静「患者の人権保障と法学界の責任」民主主義科学者協会法律部会 2016年度学術総会、2016年11月26日、早稲田大学(東京都新宿区)
3. 鈴木静「ハンセン病医療政策と人権保障」日本社会福祉学会第64回秋季大会、2016年9月11日、佛教大学(京都府京都市)
4. 鈴木静「ノルウェー・ベルゲン市 『世界記憶遺産』の活用」愛媛大学法文学部公開講座、2016年7月30日、愛媛大学(愛媛県松山市)
5. 鈴木静「ハンセン病医療政策と人権保障」日本社会福祉学会中国・四国地域ブロック第48回山口大会、2016年7月2日、宇部フロンティア大学8山口県宇部市)
6. 西山勝夫「台北帝国大学医学部の戦後の学位授与」15年戦争と日本の医学医療研究会、2016年3月20日、京都大学(京都府京都市)
7. 土屋貴志「日本の医学犯罪隠蔽に関する米国への謝罪要求論文」15年戦争と日本の医学医療研究会、2016年3月20日、京都大学(京都府京都市)
8. 土屋貴志「15年戦争期の日本の医学犯罪を検証することは医学研究倫理にとってどのような意義をもつか」第1回研究倫理を語る会、2015年12月12日、東京医科歯科大学(東京都文京区)
9. 土屋貴志「ヘルシンキ宣言の成立」15年戦争と日本の医学医療研究会、2015年11月22日、東京大学(東京都文京区)
10. 西山勝夫「侵華日軍731部隊罪行陳列館落成式への参列と長春・瀋陽調査の結果」15年戦争と日本の医学医療研究会、2015年11月22日、東京大学(東京都文京区)
11. 西山勝夫「731部隊における細菌学研究と博士号授与」ヒューマン・エシックス研究会、2015年4月25日、東山いきいき市民活動センター(京都府京都市)
12. 西山勝夫「満州医科大学の戦後の学位授与歴調査結果」15年戦争と日本の医学医療研究会第47回定例研究会、2015年3月15日、立命館大学平和ミュージアム(京都府京都市)
13. 末永恵子「満州医科大学と地域社会」第4回ワークショップ「満州の科学・医学史、核をめぐる戦時科学の連続性：研究

- の最前線から」、2014年12月7日、神戸大学（兵庫県神戸市）
14. 人権指標研究グループ（棟居徳子・芝池俊輝）「人権の『政策アプローチ』に基づく人権指標の活用とモニタリング・システムの構築」国際人権法学会第26回研究大会、2014年11月23日、広島大学（広島県東広島市）
  15. 棟居徳子「国際人権法における健康権保障の到達状況と日本の医療保障制度の課題」石川県保険医協会理事学習会（招待講演）2014年11月4日、石川県保険医協会（石川県金沢市）
  16. 西山勝夫「歴史和解へ向けた一歩となる記憶の継承の方向性について」日本軍731部隊国際学術会議（招待講演）2014年10月15日、東北亜歴史財団（韓国ソウル市）
  17. Nishiyama Katsuo “War and Medicine Fact and responsibility of Participation of Japanese Medical Establishment in the 15 years’ war Seminar” Department of Sociology & STS Studies, Seoul National University（招待講演）2014年10月14日、Seoul National University（韓国ソウル市）
  18. 井上英夫「人権と福祉を語る：日本軍慰安婦、ハンセン人、日本政府の責任と韓日関係」韓国議員セミナー（招待講演）2014年10月14日、韓国国会議員会館（韓国ソウル市）
  19. 鈴木静「日本とマダガスカル 貧困問題とハンセン病政策」医療・福祉問題研究会第116回、2014年9月13日、ITビジネスプラザ武蔵（石川県金沢市）
  20. 末永恵子「後方支援としての医療 アジア・太平洋戦争における軍陣医学の実態」日本科学者会議第20回総合学術研究集会、2014年9月13日、西南学院大学（福岡県福岡市）
  21. 末永恵子「後方支援としての医療 アジア・太平洋戦争における軍陣医学の実態」第15回ヒューマン・エシックス研修会、2014年9月7日、東京医科大学（東京都新宿区）
  22. 土屋貴志「15年戦争期における日本の医学犯罪」第55回日本社会医学会、2014年7月13日、名古屋大学（愛知県名古屋市）
  23. 西山勝夫「日本の侵略先に設置された大学における医学博士の学位授与」第55回日本社会医学会、2014年7月13日、名古屋大学（愛知県名古屋市）
  24. 棟居徳子「高齢者の人権を守る社会保障・社会福祉のあり方：健康権の国際基準と日本の課題」21世紀・老人福祉の向上を目指す施設連絡会2014年度総会（招待講演）2014年6月21日、新潟第一ホテル（新潟県新潟市）
  25. 末永恵子「台湾総督府による中国華南地

- 域への医療支援」第115回日本医学史学会総会、2014年5月31日、九州国立博物館（福岡県太宰府市）
26. 西山勝夫「陸軍軍医学校防疫研究報告第2部715号の解題」15年戦争と日本の医学医療研究会、2013年12月8日、東京大学（東京都文京区）
  27. 芝池俊輝・棟居徳子「社会権規約委員会第3回政府報告書審査の経緯と課題」国際人権法学会第25回研究大会、2013年11月24日、名古屋大学（愛知県名古屋市）
  28. 人権指標研究グループ（棟居徳子・芝池俊輝・則武立樹）「人権指標の国内における活用の試み」国際人権法学会第25回研究大会、2013年11月24日、名古屋大学（愛知県名古屋市）
  29. 鈴木静「ハンセン病医療政策と人権保障」日本情報経営学会第67回全国大会（招待講演）2013年9月28日、徳山大学（山口県徳山大学）
  30. 西山勝夫「731部隊宮崎淳臣の京都大学医学部博士学位授与（1949年4月1日）論文『破傷風及ス瓦痘能動免疫に関する研究』における人体実験」ヒューマン・エシックス研究会、2013年9月9日、京都東山いきいき市民活動センター（京都府京都市）
  31. 西山勝夫「731部隊関係者の京都大学の医学博士の学位授与に関する論考」社会医学会、2013年7月7日、首都大学東京（東京都八王子市）
  32. 土屋貴志「15年戦争期における日本の医学犯罪」第54回日本社会医学会総会、2013年7月6日、首都大学東京（東京都八王子市）

〔図書〕（計 8件）

1. Association for the Verification of Inhuman Conduct by Japanese Researchers and Health Care Professionals during the War(English version: KOJIMA Somei & NISHIYAMA Katsuo) ” Collections of Panels WAR AND MEDICAL ETHICS Participation and Responsibility of the Japanese Medical Reseachers and Physicians for the Fifteen Years’ War ”, SANKEISYA, 2015, P123
2. 15年戦争と日本の医学医療研究会編（西山勝夫、末永恵子）『NO MORE 731 日本軍細菌戦部隊』文理閣、2015年、382頁
3. 西山勝夫（中国語訳・王琪）『戦争と医学』中国和平出版社、2015年、394頁
4. 東北大学日本思想史研究室＋富樫進編（末永恵子）『カミと人と死者』岩田書院、2015年、340頁
5. 西山勝夫『戦争と医学』文理閣、2014年、400頁

6. Brigit Toebes(eds,)(Tokuko Munesue) "The Right to Health: A Multi-country Study of Law, Policy and Practics", 2014, P446
7. 民主主義科学者協会法律家部会編(井上英夫)『改憲を問う 民主主義方角からの視座』日本評論社、2014年、256頁
8. 鈴木静他編(棟居徳子・井上英夫)『人権としての社会保障 人間の尊厳と住み続ける権利』法律文化社、2013年、324頁

(3)連携研究者  
なし

(4)研究協力者  
井上英夫 (INOUE Hideo)  
金沢大学・国際基幹教育院・特任教授  
研究者番号：40114011

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

鈴木 静 (SUZUKI Shizuka)  
愛媛大学・法文学部・准教授  
研究者番号：80335885

(2)研究分担者

中川恵子(末永恵子)(NAKAGAWA Keiko)  
福島県立医科大学・医学部・講師  
研究者番号：10315658

棟居徳子 (MUNESUE Tokuko)  
金沢大学・法学系・准教授  
研究者番号：50449526

西山勝夫 (NISHIYAMA Katsuo)  
滋賀医科大学・医学部・名誉教授  
研究者番号：60077691

土屋貴志 (TSUCHIYA Takashi)  
大阪市立大学・文学研究科・准教授  
研究者番号：90264788